

令和2年度ブロック化による学校支援事業(第1教育ブロック) 報告書 【ブロック単位の事業】

(校 園 コー ド 641391)学 校 名 田川小学校

この事業の実施結果を、次のとおり報告します。

※この様式は第1教育ブロックグループあてSKIPメールにて提出してください。

※記入欄が不足する場合には、適宜、欄を増やしたり、広げたりしてください。

1 決算額 163,300 円

2 取組の概要

実施した取組にチェックをつけてください。

☐ 学びサポーターの配置☒ 児童生徒が放課後等で自主的に学習するための教材等の配付☒ 上記以外の取組(下欄に取組内容を記述してください。)

6年生の漢字検定の受験

3 目的

取組の目的にチェックをつけてください。

☒ 新型コロナウイルス感染症に対応した臨時休業による学習の遅れを生じさせないよう
補充のための授業、補習、家庭学習を実施するため☐ 教室内の密度を下げるための分散登校を実施するため

4 取組実績・決算内訳

※委員会使用欄は空欄としてください。

※本様式に加えて、@リサーチャーによる決算報告も提出していただきます。

(1) 取組実績【学びサポーターの配置】 配置の目的(枠で囲んでください。): 補充授業 補習 分散登校 配置した教科・学年・週当たりの時間数(例 国語・3年・週2時間): 週当たりの時間数合計: ____ 時間 / 週 期間: 令和 ____ 年 ____ 月 ~ 令和 ____ 年 ____ 月	委員会使用欄 <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>
決算内訳 週当たりの時間数: ____ 時間 / 週 × 人数: ____ 人 × 配置した週数: ____ 週 = 年間配置時間数: ____ 時間 / 年	
備考 ※他事業で学びサポーターや学校力UPサポーターを配置した実績があれば、その教科・学年・週当たりの時間数を記入してください。	

(2)取組実績【自主学習教材等の配付】	委員会使用欄
配付の目的(例 主体的・計画的な学習の推進、学習の遅れの解消、基礎学力の定着): 使用形態(枠で囲んでください。): 補充授業 補習 家庭学習 使用した場面(例 放課後、朝時間、家庭学習): 使用教科・対象学年(例 算数・3年): 教材の種類(例 スタディプランノート、デジタルドリル、学び直し用教材):	
決算内訳 ※教材ごとに、費目、数量、単価、金額、執行月がわかるように記入してください。	

(3)取組実績【上記以外の取組】	委員会使用欄
※何を、いつ、どれだけ実施したかを具体的に記入してください。 家庭学習の習慣化 使用形態(枠で囲んでください。): 補充授業 補習 ○家庭学習 使用する場面(例 放課後、朝時間、家庭学習): 家庭学習 使用教科・対象学年(例 算数・3年): 国語・6年 教材の種類(例 スタディプランノート、デジタルドリル、学び直し用教材): 漢字ドリル	
決算内訳 ※費目、数量、単価、金額、執行月、用途がわかるように記入してください。 11-4 漢字検定・受験料 @2500×3人=7,500円 1月 @2000×64人=128,000円 1月 @1500×3人=4,500円 1月 10-1 教員用書籍 14,420円 10-1 漢字ドリル 8,880円 合計 163,300円	

5 目標の達成状況

目標の達成状況(枠で囲んでください。): ○目標を上回る 目標どおり 目標を下回る 成果指標・検証結果(様式1の項目5で掲げた目標に対し、どのような状態になったかを記入してください。) 6年漢字検定の合格率を60%以上にするを目標にしたが、66.1%となり、達成できた。。
--

6 取組の成果と課題

今年度で3回目の漢字検定の全員受験だったが、ドリル学習で、自主学習が可能となり、家庭学習も含めて、意欲的に学習することができた。それが合格率にも反映され、基礎学力の充実に役だった。今後も、継続して、取り組みたい。
--